

船舶事故調査報告書

平成22年6月17日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（平成21年4月20日14時30分ごろ、甲板員Aが落水したものと考えられる。）
発生場所	不明（神奈川県横須賀市横須賀港第6区浦賀地区入口付近（概位 北緯35°14.1′ 東経139°44.0′）で、甲板員Aが落水したものと考えられる。）
事故調査の経過	平成21年4月21日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか2人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての甲板員Aからの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第二十八 ^{ゆたか} 豊丸、19.00トン KN2-1328（漁船登録番号）、豊丸漁業有限会社 17.50m(Lr)×4.30m×1.53m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数160、昭和58年6月1日
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和51年8月13日 免許証交付日 平成18年2月24日 （平成23年7月6日まで有効） 甲板員A 男性 24歳 操縦免許なし
死傷者等	死亡 1人（甲板員A）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長、甲板員A及び甲板員Bが乗り組み、まき網漁業船団の運搬船として水揚げの目的で、平成21年4月20日14時00分ごろ神奈川県三浦市金田湾の漁場を出発し、8～9ノットの速力で横須賀港浦賀地区に向かった。 甲板員Bは、操舵室右舷側の出入口近くで甲板員Aと会話をしていたが、本船が金田湾北東方沖の大島出シ付近を通過したころ操舵室内に入り、操船中の船長と会話をした。 船長は、14時30分ごろ甲板員Aが行方不明になっていることに気付き、船団の漁ろう長に連絡したのち、GPSプロッターに記録された航跡を逆に航行して捜索を行ったが、甲板員Aを発見することができなかった。 甲板員Aは、5月1日05時00分ごろ遺体で発見され、死因は溺死と

	検案された。								
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 3、視界 良好 海象：平穏、海面水温 約16～17℃、潮汐 下げ潮の初期								
その他の事項	本船は、航行中、大きく船体動揺することはなかった。 甲板員Aは、甲板員Bと会話をしていたとき、救命胴衣を着用していなかった。 本船の救命胴衣数は、本事故の前後で変わっていなかった。 操舵室内から本船の船尾部付近を直接視認することはできなかった。 操舵室内は機関の騒音が大きく、船長及び甲板員Bは、甲板員Aの叫び声や落水音を聞かなかった。								
分析	<table border="0"> <tr> <td>乗組員等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>船体・機関等の関与</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>気象・海象の関与</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>判明した事項の解析</td> <td>本船は、横須賀港浦賀地区に向けて航行中、甲板員Aが、救命胴衣を着用せずに本船から落水したものと考えられるが、落水に至るまでの状況を明らかにすることはできなかった。</td> </tr> </table>	乗組員等の関与	不明	船体・機関等の関与	不明	気象・海象の関与	なし	判明した事項の解析	本船は、横須賀港浦賀地区に向けて航行中、甲板員Aが、救命胴衣を着用せずに本船から落水したものと考えられるが、落水に至るまでの状況を明らかにすることはできなかった。
乗組員等の関与	不明								
船体・機関等の関与	不明								
気象・海象の関与	なし								
判明した事項の解析	本船は、横須賀港浦賀地区に向けて航行中、甲板員Aが、救命胴衣を着用せずに本船から落水したものと考えられるが、落水に至るまでの状況を明らかにすることはできなかった。								
原因	本事故は、本船が横須賀港浦賀地区に向けて航行中、甲板員Aが落水したことにより発生したものと考えられるが、その原因を明らかにすることはできなかった。								